

**教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検、評価報告書**

令和6年度事業の評価結果

令和7年11月18日

安芸太田町教育委員会

目 次

はじめに	1 頁
1 企画政策費	
(1) 加計高校を育てる会支援事業	3 頁
2 児童福祉費	
(1) 子ども・子育て支援事業	5 頁
(2) 子育て支援センター運営事業	5 頁
(3) 児童センター運営事業	6 頁
(4) 児童福祉施設事業	7 頁
(5) 保育所(園)管理事業	8 頁
3 教育総務費	
・学校の概要及び教育施策(評価無し)	11 頁
(1) 教育委員会運営事業(評価無し)	13 頁
(2) 教育委員会事務局運営事業	14 頁
(3) 奨学金貸付基金運営事業	17 頁
(4) 連携教育推進事業	18 頁
(5) 新しい学びプロジェクト事業(先端技術導入実証研究事業)	19 頁
4 小・中学校費	
(1) 小・中学校管理事業	21 頁
5 教育振興費	
(1) 小学校教育振興事業・中学校教育振興事業	23 頁
(2) 小学校就学援助事業・中学校就学支援事業	25 頁
6 社会教育費	
(1) 社会教育総務管理事業	27 頁
(2) 社会教育施設管理事業(評価無し)	28 頁
(3) 文化財保護管理事業	29 頁
(4) 生涯学習推進事業	30 頁
(5) 図書館運営事業	36 頁
(6) 放課後子ども教室推進事業	38 頁
7 保健体育費	
(1) 保健体育総務管理事業	40 頁
(2) 体育施設管理事業(評価無し)	41 頁
(3) 社会体育振興事業	44 頁
8 共同調理場費	
(1) 加計共同調理場運営事業・筒賀共同調理場運営事業	45 頁

はじめに

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。

安芸太田町教育委員会では、事務・事業の点検を行い、教育行政サービスの質の向上と効率化の実現、コスト削減を進めるために、評価し、仕事の再点検・再確認を行うとともに、厳しい財政状況における効果的な町民サービスを実現させ、効率的な教育行政の推進に資するよう努めます。

2 安芸太田町教育委員会点検・評価の方法

評価は各事業等について、行政内部による評価を行います。その後、社会教育委員会議（外部委員）に諮り、議会への提出、ホームページで公表します。

また、公表により町民の皆さんからいただく意見、要望も参考にし、今後の事業計画に反映していきます。以上の工程を毎年繰り返すことで、事業の改善を進めよりよい教育行政の運営に努めます。

3 実施の方法

評価について

(1) 評価の対象とする事業

事業評価をする項目は、安芸太田町主要施策の成果に関する調書をベースに評価します。ただし、予算のほとんどが事務費や管理費である場合は、評価しません。評価する年度で終了・廃止となる事業についても、すべて評価対象となります。

(2) 事業評価における評価者（記入者）

事業評価は事業予算担当者が評価者となります。

(3) 事業の評価

ア 必要性

現在の町民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうかを評価します。

イ 有効性

施策や運営方針、町で策定した長期総合計画の目的の実現にどの程度寄与しているかを評価します。

ウ 経済・効率性

事業のコストがかかりすぎていなければ、最小の経費で最大の効果を発揮しているか、無駄がないかなど、経済性の面から評価します。

また、事務状況を評価し、併せて目標の設定水準が適切かどうかも検討します。

エ 評価

事業の各評価項目を勘案し、外部評価委員の評価と意見の聞き取りを行います。

～ 評価のランク ～

A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

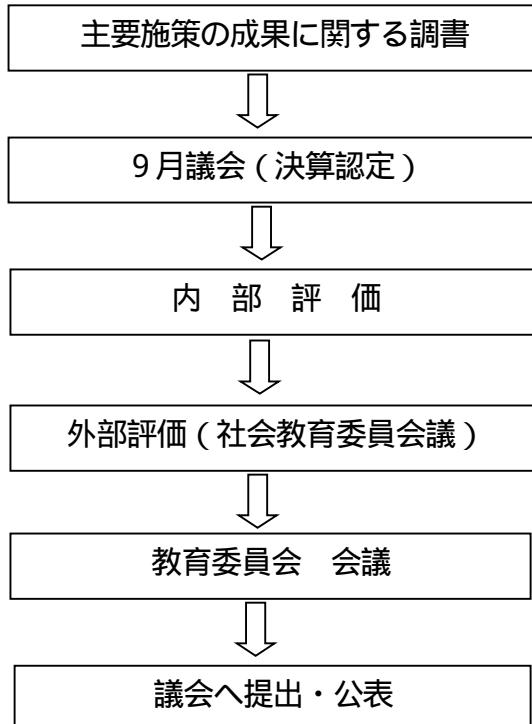
(4) 事業の方向性

上記の評価結果を踏まえて、今後どのように事業を進めるかを選択します。

(5) 評価結果の公表

公表に際しては、議会へ提出し町ホームページに掲載します。

～ 実施フロー ～



教育課

1. 企画政策費

(1) 加計高校を育てる会支援事業

事業の目的

本町唯一の高等学校である県立加計高等学校の特色ある教育の推進と、県立高等学校再編整備基本計画における統廃合対象校である加計高等学校の存続を目指し、それに要する経費に対し補助金を交付する。

事業の成果と課題

加計高等学校の寮として安芸太田町人材育成・交流センター（愛称：黎明館、居室60室）の運用を令和4年3月から開始し、51人の寮生が利用している。

加計高等学校の魅力化を進めていくため今後地域の皆様とも連携を深めていく拠点としてより機能させていく必要がある。

昨年度に引き続き、ローカルビジネス創出コーディネーター配置事業を実施し、生徒のニーズをもとに高校で行う総合的な探究の時間において課題解決に向けてのプロジェクトを企画し、実践した。糖尿病予防などの効果のある菊芋を校内で栽培収穫し、百貨店と共同でパウダー状に加工して商品化する企画やe k i e の店舗レイアウト、SNSの活用提案など将来のビジネススキルにつながる学習を行った。

地元の中学校を対象としたオープンスクールや進路講演、進路面接指導を行うなど中学校と連携した活動を行い、中高連携を深めた。

また、平成28年度から引き続き、中高一貫教育に伴う連携枠として地元出身生徒の確保や町外からの生徒確保のため、「地域みらい留学」プロジェクトに参加し、オンラインによる全国公募に努めた。

進路対策講座の一環として行っている「公営塾」は、会場を川・森・文化・交流センターとし、土日及び学校の振替休日を利用して開催し、延べ598人が参加した。

加計高校生徒数 (令和6年5月現在、単位：人)

1年生	2年生	3年生	合計
40	36	37	113

加計高校を育てる会への補助金内訳

事業名	金額[円]	内容
総合教育支援	6,950,000	進路対策講座、探究時間学習支援、部活動支援 中高連携支援、国際交流支援事業
広報活動支援	3,050,000	地域みらい留学支援（県外生徒募集）、学校広報活動費用
合計	10,000,000	

科目	金額[円]	内容
報酬、旅費	3,806,508	公営塾講師3人
役務費	51,710	人材育成・交流センター火災保険料
	46,396	人材育成・交流センター増設無線LAN通信料
委託料	24,060,000	人材育成・交流センター指定管理料
	2,997,500	ローカルビジネス創出コーディネーター業務委託料
	683,320	人材育成・交流センター無線LAN増設委託料
補助金	10,000,000	加計高校を育てる会支援事業補助金

歳出決算額 41,645,434 円

評価

事業の 評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）				
十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない	
備考				
外部評価	B	評価委員意見	・県立学校の統廃合の見直しの話題もあり、引き続き緊張感をもって取り組みを進めていただきたい。 ・補助事業の効果等の検証を強化すべきである。	
事業の 方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了	

2. 児童福祉費

(1) 子ども・子育て支援事業

事業の目的・内容

次代の安芸太田町を担う子どもの健やかな成長のために、「第3期安芸太田町子ども・子育て支援事業計画」(令和7年度～令和11年度)を策定した。

事業の成果と課題

第3期安芸太田町子ども・子育て支援事業計画策定に向け、関係機関から現行計画施策評価の聴き取りを行うとともに子ども・子育て会議を開催し、事業計画の内容について協議を行った。また、「森のようちえん」構想実現に向け、町外園所の視察を行うとともに講師を招聘し、自然保育・野外保育について研修及び講演会を開催した。子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て支援策を行う必要がある。

歳出決算額 3,743,968 円

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
備考	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	・森のようちえん構想をもう少し分かりやすくPRすればいいと思う。 ・地域住民を巻き込み、自然と触れ合いながら、地域の文化や歴史も学んで欲しい。	
	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する	
事業の方向性	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

(2) 子育て支援センター運営事業

事業の目的・内容

加計認定こども園あさひ、認定こども園とごうち内にある子育て支援センターを拠点として地域の子育て家庭に対する育児支援を行う。

事業の成果と課題

少子化の影響で利用者は減少傾向にあるが、支援センターを利用することにより、保育所やこども園の様子を知る機会となっている。保健師などの協力により、相談、支援業務も充実してきている。また、保護者のコミュニティの形成にも寄与しており支援センター事業の必要性は高い。

今後も出生数の減少、保育所・こども園入園（所）者の低年齢化により、今後の利用者減少は避けられないが、子どもを育てる環境が大きく変化する中で、親子だけの時間が多くなるなど、精神的不安が増大し、子育てに不安を感じる保護者等の不安解消対策が必要となっている。

利用状況は下表のとおりである。

施設名	利用人数	開設日数	平均利用者数
安芸太田町子育て支援センター 加計のびのび	延べ 437 人	219 日	保護者 1.3 人/日 子ども 1.4 人/日
安芸太田町子育て支援センター 戸河内ルーム	延べ 159 人	208 日	保護者 0.4 人/日 子ども 0.5 人/日

歳出決算額 12,897,018 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
備考	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	・子育て支援センターを気軽に利用できる雰囲気づくりを大切にしてもらいたい。 ・子育て世代への支援、情報提供は重要で、親の育てる気持ちを支えて欲しい。	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する	
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

（3）児童センター運営事業

事業の目的・内容

筒賀児童センターは地域の児童館としての機能を有し、放課後児童クラブを併設している。筒賀放課後児童クラブ及び加計放課後児童クラブは学校の放課後、長期休業中ににおいて、児童に生活の場を提供し、指導員の保護や支援のもとで、児童の健全育成を図るとともに、保護者の就労と子育ての両立を支援している。

事業の成果と課題

児童センター事業として、行事計画を立て、自然を活用しながらの創作活動や体験活動など多彩な行事を展開し、健康かつ情操豊かな児童の育成を図った。児童センターの利用者数は、中学生の利用が多くなり合計 6,830 人で前年より 306 人増加した。加計児

童クラブの土曜日開設については、職員を十分確保することができなかつたため、9月以降児童センターで筒賀児童クラブとの合同開設とし筒賀児童センターにて行っている。児童クラブ事業では、筒賀及び加計児童クラブ、児童クラブと子ども教室の合同事業を実施し、児童同士の交流を図った。

労働等で日中に保護者がいない世帯が増加し、放課後児童クラブ利用の要望は多くあるため指導員の確保及び研修等の受講により質の向上に努めていく必要がある。

ア 利用状況

事業名	利用人数	利用日数	平均利用者数
筒賀児童クラブ	延べ 5,793人	275日	21.1人/日
加計放課後児童クラブ (再掲:合同実施)	延べ 4,856人 (延べ:44人)	274日 (21日)	17.7人/日

イ 放課後児童クラブ利用料状況 (単位:円)

利用児童数	収入金額	未収入金額
99人	993,000円	0円

歳出決算額 26,182,098円

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
備考	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	・指導員の確保に努めていただきたい。 ・アンケート等による子どもや保護者の満足度も知りたい。	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する 単年度で終了

(4) 児童福祉施設事業

事業の目的・内容

認定こども園、保育所及び児童厚生施設等の管理・運営を適切に行うとともに、国及び県の交付事業に係る償還事務を行った。

事業の成果と課題

令和5年度子どものための教育・保育給付交付金及び子ども・子育て支援交付金事業の実績に基づき、交付金の返還を行った。引き続き、適切に事務処理を行っていく。

歳出決算額 443,784 円

(5) 保育所(園)管理事業

事業の目的・内容

就学前の子どもに教育、保育等の総合的な提供を行うために乳幼児を保育する。

町内2認定こども園、1認可保育所及び1小規模保育事業所で保育を実施した。

令和元年10月から国の幼児教育無償化施策により、3歳以上児の保育料が無償化された。併せて町独自の施策として、これまでの第2子以降保育料無償化に加え、給食費についても無償化を実施している。また、通園距離が定められた距離以上の保護者に対して通園費を補助している。

事業の成果と課題

小学校との連携を図り、相互参観、外部講師による研修を実施するなど、幼児教育から小学校教育への接続が円滑に進むように取り組んでいる。

働きながら子育てをされる家庭や行事等により一時的に預かりを希望される家庭の支援ができるように受け入れ態勢を整え、維持していく。

歳出決算額 87,753,375 円

入所児童数 (令和7年3月末現在)

保育所 こども園名	定員	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
加計認定こども園 あさひ	60	3	1	3	4	8	9	28	46.7%
修道保育所	20	1	0	0	0	2	2 (1)	5 (1)	25.0%
筒賀保育所	19	0	1	2	2	2	0	7	36.8%
認定こども園 とごうち	60	2 (1)	7	8	8	5	14	44 (1)	73.3%
合計	159	6 (1)	9	13	14	17	25 (1)	84 (2)	52.8%

()内広域入所受託児童数

収納状況

現年度保育料

保育所(園)・こども園名	調定金額[円]	収入金額[円]	未収入金額[円]
加計認定こども園あさひ	700,450	700,450	0
修道保育所	301,200	301,200	0
筒賀保育所	151,300	151,300	0
認定こども園とごうち	1,259,800	1,259,800	0
合 計	2,412,750	2,412,750	0

令和6年度 滞納繰越保育料

保育所(園)・こども園名	調定金額[円]	収入金額[円]	未収入金額[円]
	0	0	0
合 計	0	0	0

一時保育料

保育所・こども園名	利用児童数(延べ)	収入金額[円]	未収入金額[円]
加計認定こども園あさひ	89	348,200	0
修道保育所	12	43,000	0
筒賀保育所	0	0	0
認定こども園とごうち	17	34,415	0
合 計	118	425,615	0

時間外保育料

保育所・こども園名	利用児童数(延べ)	収入金額[円]	未収入金額[円]
加計認定こども園あさひ	31	6,810	0
修道保育所	0	0	0
筒賀保育所	0	0	0
認定こども園とごうち	240	48,000	0
合 計	271	54,810	0

広域入所

受託市町名	受入児童数(延べ)	利用保育所・こども園	受託金額[円]
広島市	2	修道1,あさひ1	1,655,020
廿日市市	1	とごうち1	1,229,040
合 計	3		2,884,060

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
備考	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数が減っても体制・環境整備に力を入れて欲しい。 ・一時預かりなど保護者の働きやすい環境を支援するものであって欲しい。 	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する 単年度で終了

3. 教育総務費

学校の概要及び教育施策

令和4年度以降上殿小学校は休校中であり、小学校3校、中学校2校で新学期を迎えた。

児童・生徒数については、小学校は、児童数197人で前年度と比べて11人減、中学校は、生徒数90人で前年度と比べて7人減であった。

広島県教育委員会の掲げる「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランによる「幼保小連携教育の推進」の委託事業を活用して令和元年度から令和4年度まで取組みを進めてきた。令和6年度も、その趣旨を引き継ぎ、園・所等の教員・保育士等と小学校教員が協働して「安芸太田町のめざす子ども像」に向けて作成した接続カリキュラムに基づき日々の活動を実施するとともに、保小合同研修や合同活動に取り組んだ。

本町が日本技術士会中国本部と提携して主催する「安芸太田町科学アカデミー（次世代科学者育成プログラム）」は12年目となり、年間で2回（7月、10月）実施した。ゴム動力を利用したおもちゃの工作や、トラス橋が途中で曲がらない仕組みについての学習、リニアモーターカーの仕組みについての学習など、児童生徒が楽しく科学について学ぶ機会をもつことができた。日本技術士会中国本部からは、講師派遣等、多大なご協力をいただき、大変有意義な行事となった。開催後のアンケートでは、「楽しかった」「来年度も参加したい」等、肯定的な回答がほとんどであった。

子どもにこれから社会で必要な対話による学ぶ力を培い、その学びを支える教員の指導力向上のため、一般社団法人 教育環境デザイン研究所が受託した文部科学省「学びにおける先端技術の効果的な活用に関する実証研究事業」に実証地域として参加し、これまで継続してきた協調学習に先端技術を導入することで、更に充実した取り組みとなるよう尽力し、全国から注目を集めた。

外国語活動については、JETプログラムにより招聘した外国語指導助手（ALT）2人と、外国語教育推進員を加えた3人の配置を活かし、町内の保育園所や小学校、中学校へ定期的に訪問し、各校種での外国語教育の充実を図っている。

GIGAスクール構想により導入した1人1台端末の本格運用から4年経過し、授業や家庭学習での端末のさらなる利活用や保護者との連絡ツールの導入など、各校でICT活用推進に取り組むと共に教育DX推進として、校務システムや保護者連絡ツールの活用に取り組んだ。

小学6年と中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」の結果は、次の通りである。

児童生徒質問紙における「学ぶ意欲」の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」「ICT機器の活用」について、小学校・中学校ともに大変良好という結果がでた。さらに、「自尊感情」の「自尊感情・キャリア教育」「人や社会とのつながり」「学校生活」においても、大変良好といえる結果となった。

学力調査では、小学校の国語は全国平均と同程度、算数は全国平均を下回っている。中学校においては、国語・数学ともに全国平均を上回っている。算数・数学は、国語よりも下回る傾向となっており、授業改善を中心とした学力向上の取組が必要である。

学校別児童・生徒数及び教職員数(令和6年5月1日現在)

小学校

(単位：人)

	加計	筒賀	戸河内	合計
学級数	7(1)	7(1)	6	20(2)
1年生	16	7	8	31
2年生	18	6	6	30
3年生	17	6	11	34
4年生	17	7	10	34
5年生	19	10	9	38
6年生	14	11	5	30
計	101	47	49	197
学校長	1	1	1	3
教頭	1	1	1	3
教諭	11	6	5	22
養護教諭	1	1	1	3
事務職員	1	1	1	3
栄養教諭	0	1	0	1
計	15	11	9	35

学級数の()は、うち特別支援学級数。

教職員数 教諭は、本務者の数。

中学校

(単位：人)

区分	加計	安芸太田	合計
学級数	5(2)	4(1)	9(3)
1年生	14	16	30
2年生	16	16	32
3年生	10	18	28
計	40	50	90
学校長	1	1	2
教頭	1	1	2
指導教諭	0	1	1
教諭	10	10	20
養護教諭	1	1	2
栄養教諭	1	0	1
事務職員	1	1	2
計	15	15	30

学級数の()は、特別支援学級数。

(1) 教育委員会運営事業

安芸太田町教育委員等

教 育 長：大野 正人

教育委員：清胤 祐子・池野 博文・河本 千絵・小田 純子

教育委員会議の開催状況 12 回

日 時	主な協議事項	出席 委員
4月 16 日	安芸太田町立学校職員服務規程の一部を改正する訓令について	5
5月 17 日	「安芸太田町家庭的保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」の一部改正について 安芸太田町子ども・子育て会議委員の委嘱について 令和6年度学校運営協議会委員の委嘱について	4
6月 17 日	安芸太田町学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 安芸太田町特色ある体験活動支援事業補助金交付要綱の制定について 安芸太田町筒賀児童センター運営委員会委員の委嘱について	4
7月 19 日	安芸太田町スポーツ大会等参加補助金交付要綱について	5
8月 8 日	令和7年度使用中学校教科用図書の採択について	4
8月 28 日	著作教科書及び学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書の採択について 安芸太田町付属機関の設置に関する条例等の一部改正について 安芸太田町教育振興基本計画検討委員会設置要綱の制定について 安芸太田町筒賀児童センター運営委員会委員の委嘱について	4
9月 27 日	安芸太田町教育委員会心の健康づくり計画について 安芸太田町部活動の地域移行・地域連携検討協議会委員の委嘱について 安芸太田町社会教育委員の委嘱について 安芸太田町公民館運営審議会委員の委嘱について 安芸太田町立図書館協議会委員の委嘱について 安芸太田町文化財保護審議会委員の任命について 安芸太田町スポーツ推進委員の委嘱について 2025年度使用中学校教科書の採択に係わる請願について	5
11月 19 日	安芸太田町教育支援委員会委員の委嘱について	5
12月 17 日	報告協議等	5

日 時	主な協議事項	出席委員
1月 20 日	安芸太田町立小・中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部改正について 安芸太田町就学援助費支給要綱の一部を改正する告示について 安芸太田町就学援助費支給事務取扱細則の一部を改正する訓令について	5
2月 18 日	安芸太田町立小・中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部改正について 安芸太田町教育委員会事務局組織規則の一部改正について	5
3月 18 日	安芸太田町遠距離児童・生徒通学費補助金交付規程の一部改正について 安芸太田町放課後児童クラブ条例施行規則の一部改正について 安芸太田町立学校職員衛生管理要綱の一部改正について 安芸太田町学校・園・所支援ボランティア実施要綱の制定について 県費負担教職員の任免その他の進退の内申について	5

園所・学校訪問 10月 1日(修道保育所、加計認定こども園あさひ、加計小学校、
加計中学校)
10月 17日(認定こども園とごうち、筒賀保育所、筒賀小学校)
10月 22日(戸河内小学校、安芸太田中学校、黎明館)
歳出決算額 教育委員会運営事業 1,092,788 円(報酬・費用弁償・負担金)

(2) 教育委員会事務局運営事業

• ALT (外国語指導助手) 活用事業

事業の目的・内容

ALTはJETプログラムによる2人と、外国語教育推進員の3人体制で全小中学校へ毎週(小学校週2回、中学校週2回)訪問し、児童・生徒の英語による実践的コミュニケーション能力の育成と国際理解を深めた。

また、町内各こども園や保育所へ訪問し、就学前教育の充実を図った。

事業の成果と課題

ALTは毎週各学校へ訪問し、授業の補助のみならず、休憩時間に児童生徒と触れ合うことで児童生徒の英語や外国の文化に触れる機会を持たすことができている。また、自国の文化を紹介するポスターを作成して学校に掲示するなど、興味や意欲を伸ばす取り組みがけている。こども園、保育所へは週一回程度訪問し、幼児期から英語や海外の文化へ触れさせることができている。

英語暗唱大会では、練習に参加し、発音やジェスチャーについてアドバイスを行い、【暗唱部門】1年生3位 2年生1位、3位 3年生2位、3位【スピーチ部門】2位という成果を出すことができた。また、英語検定時にはインタビュー練習など積極的に協力し英語検定取得率の向上に尽力した。第3学年の3級以上取得者の割合は次の通り。

(R2 61.3% R3 46.9% R4 54.8% R5 45.2% R6 75.0%)

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
備考	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 英語暗唱大会の入賞と英検取得率の向上など成果が上がっている。 幼児期から外国語に慣れ親しめる環境づくりを継続して欲しい。 	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する	
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

・学校ICT整備事業

事業の目的・内容

ICTを用いた「学校での学び」や「家庭での新しい学び」の更なる推進について取り組むとともに、データやデジタル技術の活用により、学校教育のあり方や教育手法の変革を行う教育DXを推進する。教育ネットワークの統合と新しいセキュリティシステム、校務支援システム、AI型ドリル等の導入により教職員の業務改善を行い、児童生徒や保護者に向き合う時間を確保するとともに、教育データを活用した個別最適な学びの実現に向け、取り組んでいく。

事業の成果と課題

令和5年度に教育DX推進事業として児童生徒端末を更に活用するための取組であるAI型ドリルの導入及びネットワーク統合と校務支援システムの導入、保護者連絡ツールの導入も行い、DX推進の基盤を整備しており、学校での各システムの活用推進のため、研修やサポートを行った。また、教育システムのフルクラウド化に向け学校ホームページ移行、ネットワークアセスメントを行った。児童生徒端末の更改に向け広島県GIGAスクール推進協議会に参加し、計画を進めた。

整備されたシステムの更なる活用推進のため、町内での活用状況の共有やサポートを進めていく必要がある。また、次年度実施の児童生徒端末等の更改について、スムーズな更改が行えるよう計画と、サポートを実施していきたい。

県内での校務支援システム統合の計画（令和10年度開始予定）に向けたネットワー

ク環境及びセキュリティについて計画的な整備を検討する必要がある。

歳出決算額（学校ＩＣＴ関連）

区分	金額 [円]	備考
回線使用料	868,506	インターネット、プロバイダーほか
ソフトウェア使用料	100,760	ライフィズテック（技術科用）
システム保守	3,057,285	サーバー・ネットワーク保守
機器賃借料	3,525,390	サーバーリース料
委託料	1,459,700	学校ホームページクラウド移行、ネットワークアセスメント、教員ｅラーニング研修
備品購入費	134,860	アクセスポイント
小計	9,146,501	学校ＩＣＴ整備費小計
ＩＣＴ支援員	7,788,000	各校巡回支援員
合計	16,934,501	学校ＩＣＴ関連合計

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
備考	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	・ネットワークのリスクも学びながら、ＩＣＴを十分に活用してもらいたい。 ・学校への人的な支援もよくされている。	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する 単年度で終了

(3) 奨学金貸付基金運営事業

事業の目的・内容

高等学校、専門学校及び大学に進学を希望するが、経済的な理由から修学が困難な者に対して奨学生を貸し付ける。

奨学生会計の状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

収支の状況

収入の部		支出の部	
費目	金額 [円]	費目	金額 [円]
返還金	7,467,000	貸付金	1,952,000
前年度繰越金	48,886,224	次年度へ繰越	54,440,193
寄附金	0		
利子	38,969		
計	56,392,193	計	56,392,193

貸付状況

区分	貸付者数[人]			貸付額 [円]
	大・専	高	計	
6年度新規貸付	2	1	3	1,304,000
在学貸付中の者	2	0	2	648,000
計	4	1	5	1,952,000

奨学生会計総額

区分	金額 [円]
貸付金	38,782,800
現金	54,440,193
計	93,222,993

事業の成果と課題

進学希望者を経済的に支援することができたが、現在は収支バランスが保たれているが、今後希望者が急増すれば、基金の不足が予測される。

事業の目的をより多くの方に知っていただき、活用していただけるように広報等の周知方法をさらに検討する必要がある。

歳出決算額 54,077 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
備考	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない
外部評価	B	評価委員意見	・基金の繰越額を踏まえ、貸付額の増額の検討、広報の充実を図られたい。	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する 単年度で終了

（4）連携教育推進事業

- ・連携教育推進事業

事業の目的・内容

小学校又は中学校間及び中学校区ごとの小小連携や小中連携といった児童・生徒・教職員を含めた学校間の交流、教育振興を目的とする。

事業の成果と課題

本町で進める連携教育の目的達成のために社会見学、合宿といった合同教育活動への講師謝礼や児童生徒の移動等に予算を充て、より効率的な推進を図った。

小小連携である3校合同合宿を7月17日から19日の2泊3日で、江田島青少年の家で実施した。普段では行えない体験活動や、3校の交流を通して協調性や連帯意識に基づくより良い人間関係を形成する力の育成や、困難な体験を克服してやり遂げることや粘り強くやり抜く態度を育てることの大切さに気付く取組となった。

中中連携である合同文化祭を11月3日に戸河内ふれあいセンターで開催した。「つながる“創造”」をテーマに各校の特色を生かしたステージ発表を行った。文化祭を通して各校の創造力を高め、生徒同士の絆やつながりを一層深めることができた。

保小中で個に応じた支援を切れ目なく継続して行うため、特別教育支援教育士による巡回相談を実施した。専門的な視点でアドバイスをもらい、児童生徒の個別の特性に応じた支援計画を立てることができた。

学習科学の専門家を講師として招聘し、各校で研究授業を実施した。授業の中での子どもの見取りや子供の思考の想定をもとにした授業づくりなど学習科学の視点に基づいた指導・助言をもらうことで、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善や

教職員の力量向上を図ることができた。

日本技術士会の共催のもと、町内小中学生を対象とした科学アカデミー教室を実施した。12回目となる令和6年度はのべ46人が参加し、ゴム動力を利用したおもちゃの工作や、トラス橋が途中で曲がらない仕組みについての学習、リニアモーターカーの仕組みについての学習など、児童生徒が楽しく科学について学んだ。事後のアンケートでは、「三角形が強いことが分かった」「少し難しかったけど、とても楽しかったので次も参加したい」など肯定的な感想が多かった。

歳出決算額 1,437,811円

・新しい学びプロジェクト事業（先端技術導入実証研究事業）

事業の目的・内容

平成22年度から、子ども達の主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、研究者（CoREF）と全国の参加団体（教育委員会、学校ネットワーク等）が連携して授業研究を行っている新しい学びプロジェクトに参加し、知識構成型ジグソー法を用いた協調学習による授業改善の取組を目的とする。

また、この取組に関連して、一般社団法人教育環境デザイン研究所が受託した文部科学省「学びにおける先端技術の効果的な活用に関する実証研究事業」における、子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現のための児童生徒の学習過程の適切な見とりにも取り組む。

事業の成果と課題

全国の研究推進員やサポートメンバーとのマーリングリストでのやり取りをとおした授業づくりや先端技術を活用した授業記録、記録を活用した授業後の研修などに取り組んだ。また、全国の参加団体が集合して行う研修会にも複数の教員が参加し、授業検討等を行った。

研修会に参加することで、教員が新しい学びの方向性を知ることができた。また、研修での学びを活かし、各校で子どもの学びの事実に基づく授業デザインと振り返りのP D C Aサイクルが回り始め、各校で自立した授業研究を行えるようになった。

教員対象に実施したアンケートによると子ども観や授業観に変容が見られ、授業づくりに対する意識にも変化が見られた。

歳出決算額 549,270円

（内）171,340円は教育委員会事務局費（旅費）

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
備考	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力、教材研究力などの向上に成果が見られる。 ・取り組みのさらなる工夫が必要である。 	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する	
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

4. 小・中学校費

(1) 小・中学校管理事業

- ・スクールバス運行（使用料及び賃借料）

遠距離通学に係る小学校便を7路線、中学校便は6路線で運行し、児童生徒の安全な登下校を確保した。

小学校費

学校名	運行地域	金額 [円]	備考
加計小・加計中	修道・安野	13,154,377	小・中学生が一緒に登校
	坪野・津浪	8,512,724	
	殿賀	7,605,796	
	猪山	3,496,700	
戸河内小	小板・松原	405,780	小板・松原、寺領は下校タクシー分
	寺領	532,140	
	上殿	6,340,768	
合 計		40,048,285	

中学校費

学校名	運行地域	金額 [円]	備考
加計中	修道・安野	2,481,600	中学校のみ利用及び週末部活便
	坪野・津浪	1,687,906	
	殿賀	1,638,010	
	猪山	262,500	
安芸太田中	寺領・土居・上殿	8,943,484	小・中学生が一緒に登校
	小板・松原・遊谷・上本郷	10,839,392	
合 計		25,852,892	

（統合に伴う通学経費の補助金 上殿便：国庫補助1,941,000円・県費補助422,000円）

・小・中学校管理・運営事業

事業の目的・内容

児童生徒が安心・安全な教育活動を行うために、施設の保守・整備・修繕を行う。

事業の成果

ア 施設の修繕状況（修繕料）

小学校 1,002,130円

簡賀小学校遊具修繕、戸河内小学校汚水配管修繕、

加計小学校コンクリート壁修繕 他

中学校 1,880,102円

安芸太田中学校電気設備P A S更新修繕、加計中学校屋内消火栓ポンプ修繕

安芸太田中学校玄関扉フロアーヒジン修繕 他

イ 管理、点検等業務委託（委託料）

小学校 5,227,434 円

自家用電気工作物保安管理業務・消防用設備等保守点検業務

加計小学校植栽整備等業務・空調設備保守業務

筒賀小学校建築物・防火設備定期報告書作成業務

町内小学校施設清掃業務・上殿小学校環境整備業務

筒賀小学校遊具解体撤去業務 他

中学校 3,338,270 円

自家用電気工作物保安管理業務・消防用設備等保守点検業務

加計中学校建築物・建築設備・防火設備定期報告書作成業務

町内中学校施設清掃業務 他

ウ 工事請負費

中学校 4,070,000 円

安芸太田中学校 3 階 L E D 照明取替工事

評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）				
<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている <input checked="" type="checkbox"/> できている あまりできていない できていない				
備 考				
外部評価	A	評価委員意見	・学校施設の充実に努めていただいている。 ・引き続き、児童生徒の安心・安全のために必要に応じた管理をお願いしたい。	
事業の 方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する	
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

5. 教育振興費

(1) 小学校教育振興事業・中学校教育振興事業

・特色ある学校づくり推進事業補助金

事業の目的・内容

各学校が独自性のある学校づくり推進事業の展開が実施できるように活動費補助を行い、もみじプラン21を基本とした特色のある活動を推進した。

事業の成果と課題

特色ある学校づくり補助金による外部講師の招聘や地域の方の協力により、各学校とも校長の経営方針に基づいた特色ある学校づくりに取り組んだ。

小学校費

学校名	金額 [円]	事業テーマ
加計小学校	286,465	気づいて 考えて やってみる 児童を育成する加計小学校の創造(マーチングバンド指導講師代、バンドフェスティバル参加費用等)
筒賀小学校	186,500	多様な他者と協働し、挑戦心を發揮する体験的活動の創造(水泳指導講師代、けん玉指導講師代等)
戸河内小学校	203,085	仲間・地域とつながり、学校の伝統を創り出す児童の育成(合唱指導、和太鼓指導、スキー教室講師代等)
合計(a)	676,050	

中学校費

学校名	金額 [円]	事業テーマ
加計中学校	186,300	高い志を持ち、地域に貢献し、主体的に生きる生徒の育成(マナー講座、Nコン合唱指導謝金等)
安芸太田中学校	71,602	未来を創る人づくり 生徒が主体となって輝く教育の創造(キャリア講座、スキー教室講師謝金等)
合計(b)	257,902	

・その他補助金

事業の目的・内容

町内小中学校が行う、合同修学旅行等の費用へ補助を行った。

学校を通じて申し込みをした英語検定について年1回を原則として補助を行った。

公共交通機関で通学する児童と自転車通学を行う生徒に対し、遠距離通学補助を行った。

また、中学校において各種大会への参加について補助を行った。

事業の成果

町内小中学校で合同修学旅行を実施することができ、学校間の児童生徒が交流を深め、団体行動による社会性の育成と同世代同土のコミュニケーション育成につながった。

平成 29 年度から行っている英語検定料補助により、全生徒に英語検定に挑戦する機会を設け、継続して受験することで学習意欲の向上を図り、英語力につけることが出来ている。

中学校では駅伝大会、スキーの全国大会等への参加補助により、個々の持つ能力を発揮する機会を持たせることができた。

名 称		金額[円]	備 考
小学校	小学校修学旅行補助金 (山口県・福岡県方面)	378,663	@12,000 × 30 人 他
	遠距離通学補助金	66,100	加計小 1 人 (公共バス定期代)
	小学校計(c)	444,763	
中学校	中学校修学旅行補助金 (東京都・千葉県方面)	751,776	@18,000 × 33 人 他
	遠距離通学費補助金	63,700	加計中 6 人 (下期 5 人) (37,100 円) 安芸太田中 5 人 (下期 4 人) (26,600 円)
	英語検定料補助金	292,260	加計中 37 名分 (118,980 円) 安芸太田中 48 名分 (173,280 円)
	第 51 回陸上競技選手権大会	3,600	大会参加者 3 名分 (加計中)
	第 32 回広島県中学校英語暗唱・弁論大会	1,000	大会参加者 1 名 (安芸太田中)
	第 56 回広島県中学校スキー選手権大会 第 46 回中国中学校スキー選手権大会 第 61 回全国中学校スキー大会	185,819	大会参加者 1 名分 (安芸太田中)
中学校計(d)		1,298,155	
小学校費補助金合計(a)+(c)		1,120,813	
中学校費補助金合計(b)+(d)		1,556,057	

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
備考	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	できている	あまりできていない	できていない
外部評価	A	評価委員意見	・学校の独自性を發揮する特色ある活動のための必要な支援を引き続きお願いしたい。 ・町からの補助金により保護者の負担を減らすことができている。	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する 単年度で終了

(2) 小学校就学援助事業・中学校就学援助事業

事業の目的・内容

経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対して、国の制度に則り、学用品や給食費など必要な援助を行った。

事業の成果

援助が必要な児童生徒に対して、経済的負担を軽減することができた。

歳出決算額

準要保護児童生徒就学援助費に係る支給状況（令和6年4月～令和7年3月）

区分	支 給 額 [円]			備 考
	小学校	中学校	計	
学用品費等	428,910	395,082	823,992	
修学旅行費	65,080	394,600	459,680	
校外活動費	0	0	0	
新入学学用品費	108,120	126,000	234,120	
給食費	1,360,044	888,596	2,248,640	
医療費	0	0	0	
P T A会費	71,400	56,350	127,750	
新入学用品入学前支給	432,480	252,000	684,480	
計(f)	2,466,034	2,112,628	4,578,662	

就学援助対象者の割合 小学校 16%、中学校 18%

特別支援就学奨励費補助金に係る支給状況（令和6年4月～令和7年3月）

区分	支 給 額 [円]			備 考
	小学校	中学校	計	
学用品費等	27,800	37,500	65,300	国庫補助額 小・中学校 73,000 円
修学旅行費	0	49,325	49,325	
校外活動費等	30,940	3,500	34,440	
新入学学用品費	0	31,500	31,500	
給食費	94,752	89,301	184,053	
医療費	0	0	0	
計(g)	153,492	211,126	364,618	
扶助費合計(f)+(g)	2,619,526	2,323,754	4,943,280	

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない	
備考				
外部評価	A	評価委員意見	・家庭の経済状況に左右されず、安心して学ぶ機会を保証するための事業は必要である。 ・引き続き適正な事業を実施してもらいたい。	
事業の方向性	さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

6. 社会教育費

(1) 社会教育総務管理事業

事業の目的・内容

社会教育の推進を図るため、各種団体への負担金・補助金を支払う。

社会教育関係負担金の内訳

名 称	金額[円]
広島県社会教育委員連絡協議会会費	24,000
けんみん文化祭ひろしま'24 開催負担金	100,000
広島県公民館連合会負担金	76,900
合 計	200,900

社会教育関係補助金の内訳

名 称	金額[円]
安芸太田町女性連合会事業補助金	1,053,000
安芸太田町子ども会連合会事業補助金	225,000
安芸太田町 PTA 連合会事業補助金	135,000
青少年育成安芸太田町民会議事業補助金	450,668
安芸太田町文化団体連合会事業補助金	270,000
合 計	2,133,668

事業の成果と課題

各団体とも会員数が減少傾向にある中、現状維持に努めて、従来からの諸活動を継続しているが、今後の在り方について、検討する必要がある。

歳出決算額 6,638,798 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
備考	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の事業評価に当たって、補助金の使途など検証できる資料に改善してもらいたい。 ・それぞれの取り組みで生涯学習の視点を強化してもらいたい。 ・戸河内ふれあいセンターの指定管理者の管理運営に課題がある。 	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する 単年度で終了	

（2）社会教育施設管理事業

事業の目的・内容

社会教育施設の運営維持のため、以下の施設について保守・整備・修繕を行う。

施設名	金額[円]	備考
戸河内ふれあいセンター	10,714,451	指定管理、建物共済、修繕料 外
筒賀公民館	514,790	光熱水費、通信運搬費 外
筒賀公民館東区分館	124,200	消耗品・電話料、管理委託 外
温井文化センター	258,724	管理委託、浄化槽管理委託、修繕料 外
香南文化センター	571,513	指定管理、建物共済 外
川・森・文化・交流センター	21,166,946	報酬、需用費、委託料 外
その他	17,910	戸河内分室漏水修繕 外

事業の成果と課題

施設の管理について、各施設とも老朽化による修繕の増加が今後とも予想され、不具合箇所を適切な補修を行なうことで対応している。

歳出決算額 33,368,534 円

(3) 文化財保護管理事業

事業の目的・内容

指定文化財を含め貴重な財産である文化財の保存維持を図るとともに、郷土の歴史を研究している団体の活動を支援する。

種 別	件 数
国指定	2
国登録	2
県指定	14
町指定	37

・安芸太田町郷土史研究会事業補助金 163,000 円

事業の成果と課題

文化財保護審議会を開催し、文化財の保存及び活用に関する事項を審議していただいた。文化財の価値を損なうことなく後世に継承していく「保存」そして地域においてより多くの人々に対して公開し、鑑賞してもらい、親しんでもらう「活用」について、今後より検討する必要がある。

歳出決算額 463,606 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
備考	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	・指定の有無に関わらず、文化財の所在や概要、郷土資料の在庫を見るべきである。 ・後世に継承するため、文化財の具体的な保存対策、保存方法について再確認すべきである。	
事業の方向性	さらに重点化する	現状のまま継続する	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する	
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

(4) 生涯学習推進事業

当事業の歳出決算額は 2,036,302 円である。以下に主要な項目について述べる。

ア 地域生涯学習センター（小学校廃校地域対象）

事業の目的・内容

廃校となった小学校区を対象に地域生涯学習センターを開設した。

各地域の団体と連携し、講座や教室、スポーツ大会の開催、地域情報の提供等を実施し、地域の活性化を促す。

事業の成果と課題

地域生涯学習センターの人員不在となつたため、令和 5 年度から休止。

事業額 0 円

イ 安芸太田町二十歳を祝う会

事業の目的・内容

新成人の門出を祝福するとともに、大人の仲間入りをしたことによる義務と責任を再確認してもらうための事業として実施している。

また、民法の一部改正により、令和 4 年 4 月 1 日から成年年齢が 18 歳に引き下げられたが、本町では、18 歳の多くが大学等の進学受験や就職といった極めて多忙な時期と重なり、本人だけでなく家族を含め、落ち着いた環境で成人を祝うことが望ましいと判断し、令和 5 年度以降も 20 歳を対象に「安芸太田町二十歳を祝う会」として開催している。

なお、令和 6 年度は、新たな試みとして、加計高等学校の卒業生も対象者として、出席を案内した。

開催日時 令和 7 年 1 月 12 日（日） 午前 11 時 30 分～

開催場所 川・森・文化・交流センター やまびこホール

対象者 平成 16 年 4 月 2 日～平成 17 年 4 月 1 日生まれ

対象人数 男性 28 人 女性 26 人 計 54 人

【出席者数】 29 人 出席率 53.7%

内 容 式典、記念行事及び戸河内ウヰスキー

記念品 「ウヰスキーグラス（風炎窯）」

事業の成果と課題

令和 5 年度の二十歳を祝う会でも実施し、好評だった「未来へつなぐ“戸河内ウヰスキー”」を今回も企画。アトラクションでは、卒業した小中学校の現在の映像などを放映するとともに、中学 3 年時の恩師や人生の先輩としての地域おこし協力隊である講師からのお祝いの言葉があったほか、出席できなかつた対象者も雰囲気を共有できるよう、インターネット中継を行つた。

事業額 836,961 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
備考	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない
外部評価	B	評価委員意見	・二十歳という節目を迎えた対象者の将来への希望と 郷土愛につながる行事を継続してもらいたい。 ・加計高校の卒業生も対象とすることは良いことと思 う。	
	事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

ウ 公民館講座（そろばん教室）

事業の目的・内容

そろばん教室を通して、子どもたちに低下しがちな集中力、忍耐力、積極性を養うことのために、隔月1回の検定試験を実施し、昇級を目指して努力している。

日 時 毎週火曜日 午後6時から7時まで

講 師 一般社団法人 全国珠算教育連盟 広島県支部 栗栖 貞文

場 所 川・森・文化・交流センター

受講生 18人

事業の成果と課題

毎月検定を行うことにより、よりレベルを上げていくというチャレンジ精神が養われている。

事業額

歳入（受講料） 258,000円

歳出（講師謝礼） 287,000円 @7,000円／回 × 41回

エ カルチャー教室

事業の目的・内容

都市部では様々なカルチャー講座が実施され、意欲のある人が参加している。しかし安芸太田町では、意欲がある人がいても、交通手段等の事情により受講することが難しい。

そこで、町民の文化に対する意識向上や生きがいづくり日常の充実を図ることを目的に、平成23年度より町が講師を招聘し、町民に対し安価で受講できるカルチャー講座を開講している。

住民からの要望と「morica アプリ」の普及のため、「移動型スマート教室」等を企画DX課と合同で開講するとともに、初心者向けの「パソコン教室」も開催した。

事業の成果と課題

企画課と合同で開催した各種スマート教室やパソコン教室を次のとおり開催した。今後も、町民のニーズを把握し、事業を実施する。

「移動型スマート教室」 安芸太田病院・5日間・5講座 受講22人

「スマート教室」 安芸太田町役場・3日間・12講座 受講31人

「スマート講習会」 役場外2会場・8日間・25講座 受講50人

「パソコン教室」 川森外6会場・4日間・8講座 受講12人

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
備考	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	・スマート教室等は一定の成果があると思うが、町民の様々な学習ニーズをリサーチすべきである。	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する 単年度で終了	

才 芸術文化推進事業

事業の目的・内容

質の高い芸術文化に触れてもらうことにより、町民の芸術文化感覚を養う。

また、文化団体連合会の事務局を教育委員会内に置き、町民の芸術文化活動を発表する場を設けることにより、町民の日々の生きがいづくりを支援する。

事業の成果と課題

安芸太田町文化芸能フェスティバルを開催。書道や美術などの作品を数多く出展され、ステージでは団体等の発表があり、多くの方の来場があった。

高齢化等により加盟団体数も微減しており、各種団体の活性化を図ることが今後の課

題である。

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)				
十分できている <input checked="" type="checkbox"/> できている あまりできていない できていない				
備考				
外部評価	B	評価委員意見	・文化芸法フェスティバルは、出店者や出演者の励みにもなっている。 ・もう少し生の芸術に触れる場を設けてもらいたい。	
事業の方向性	さらに重点化する	現状のまま継続する	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する	
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

力 人権教育関係

事業の目的・内容

人権フェスタの開催

各団体・機関が実施している人権イベントの連携と交流のネットワークを図り、お互いの活動を紹介し合い、情報を共有し、人的な交流を深め合うことを大切にするため、平成20年度から実施している。

日 時 令和6年12月14日(土) 午後1時から午後3時10分

場 所 戸河内ふれあいセンター

講演会 講師：崔 希美

演 題 「障害者スポーツから見た『笑顔の力』」

・人権展：町内小学6年生の人権標語展示

(人権標語は町内小・中・高等学校、町内企業等所で展示)

事業の成果と課題

人権週間・障害者週間と合わせ、令和6年度で17回目となる「人権フェスタ」を開催し、町内介護福祉事業所による体験・展示・販売コーナーを設け、多くの参加があった。

今後も「住んでいて良かった」「人権が尊重されるまち」と実感できるよう人権教育・啓発活動を行っていく。

事業額 159,228円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
備考	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が連携した人権フェスタは啓発活動の場として有効であると思う。 ・行政などの各分野が連携して人権感覚を磨く取り組みも必要である。 	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する 単年度で終了	

キ 子ども会活動

事業の目的・内容

連合会の事務局を教育委員会内に置き、町子ども会連合会としての主催活動を展開し、情報の交換・共有を図る。

事業の成果と課題

様々な事業を行う中で地域の子ども会活動を支援し、子どもたちに楽しむ場を提供了。

子どもの減少により、子ども会を組織できなくなる地域が増えているが、町子ども会連合会を受け皿にして、町子ども会連合会の主催活動には全ての子どもが参加できる体制をとっている。上関町子ども会育成連絡協議会との「漁村交流会」を開催し、町内小学生17人と加計高校ボランティア5人が参加した。

(ア) 安芸太田町子ども会連合会活動の促進・支援

総会 年1回開催

役員会 年4回開催

(イ) 漁村交流会

趣旨 海沿いに面する地域に住む町外の子どもたち（山口県熊毛郡上関町）との交流を図るとともに、お互いの子ども会活動の情報を交換しあう中で、更なる活動の活性化を進める。

(ウ) 親子クリーンハイキング

趣 旨 親子でハイキングをすることにより親子の絆を深めるとともに、ハイキングの際、ゴミを拾うなど美化活動を行なうことにより環境保全の意識、ボランティア精神の向上を高める。

主 催 安芸太田町子ども会連合会

日 時 令和7年3月15日 参加者29人
(子ども17人、大人9人、加計高ボランティア3人)

場 所 加計地域

ク P T A活動

事業の目的・内容

安芸太田町P T A連合会(以下町P連とする)の事務局を教育委員会内に置き、町P連としての主催活動を促進し情報交換・共有を図るとともに、各学校単位P T A(以下「単P」とする。)の活動を支援する。

事業の成果と課題

子ども会連合会との共催により、チャレンジコンクール、親子クリーンハイキングを実施。また、テレビ、ゲーム、スマートフォン等の使用ができるだけ減らし、家族のふれあい時間を増やすための「ノーメディアデー」を設定するなど、家庭・学校・地域の連携、協力が図れた。

ケ 青少年育成町民会議活動

事業の目的・内容

町民会議の事務局を教育委員会内に置き、町民会議として主催活動を促進するとともに、情報交換・共有を図る。

事業の成果と課題

各種事業を行うことにより関係団体間の連携・情報交換ができ、地域全体で青少年を育んで行くという大きなつながりができた。

(ア) 青少年育成安芸太田町民会議活動の促進・支援

総 会 年1回開催

(イ) 立志式

趣 旨 成長過程にある安芸太田町内中学校2年生を激励するとともに、生徒自らが自立心をもって生きることを促し、心豊かでたくましく生きる生徒の育成を図る。

日 時 令和7年2月1日 午前9時30分~

会 場 川・森・文化・交流センター やまびこホール

講 師 梶原 正貴さん

対 象 町内中学2年生29人

(ウ) 第16回あきおおたゲームハイキング

趣 旨 町内の自然・文化・歴史を訪ね、地域の方から話を聴き、地域を知るとともに、郷土に誇りを持ち郷土を愛する心を育む。また、多くの仲間との交流を通じて、協力することの大切さを学ぶとともに、友情の和を広げ世代の枠を超えた交流の中で、お互いを理解しあう。

日 時 令和6年8月20日 午前10時～午後2時30分 参加者 42人

場 所 上殿地域(平和を祈る山ゆりの像、山根蕭頌徳碑、上殿上水路記念碑、京之本遺跡、砂防護岸工法の石畳、宗玄寺の石塁、上殿コミュニティセンター)

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
備考	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
外部評価	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	B	評価委員意見	・地域を学ぶゲームハイキングなど健全な子どもの育成への取り組みが継続されていることは評価できる。	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する 単年度で終了

(5) 図書館運営事業

事業の目的・内容

- ・図書館協議会開催

日 時 令和7年3月13日

・図書購入状況

	区分	6年度購入	金額 [円]	備考 (寄贈含む)
本館	蔵書	530冊	928,008	総冊数 44,522冊
	雑誌	15種類	121,749	総冊数 471冊
筒賀分室	蔵書	157冊	244,105	総冊数 10,400冊
	雑誌	3種類	19,555	総冊数 222冊
戸河内分室	蔵書	196冊	311,586	総冊数 14,810冊
	雑誌	8種類	104,116	総冊数 357冊
大型絵本・紙芝居		0点	0	うち蔵書登録 1,090点
視聴覚		7点	114,400	総数 856点

・図書館利用状況

(ア) 開館日数 【本館】279日、【筒賀分室】265日、【戸河内分室】269日

(イ) 貸出し冊数

区分		本館	筒賀分室	戸河内分室	移動図書館
貸出 し 冊 数	一般書	7,866冊	1,915冊	2,772冊	1,302冊
	児童書	11,699冊	2,818冊	2,244冊	3,019冊
	雑誌	618冊	28冊	318冊	38冊
	視聴覚	1,118点	114点	33点	0点
	その他(外国語図書)	12冊	0冊	0冊	0冊
	計	21,313冊	4,875冊	5,367冊	4,359冊

(ウ) 移動図書館やまびこ号

・月1回 火・水・木・金曜日に町内22箇所を巡回

・利用状況 利用者数 958人

(エ) 令和6年度は司書2名体制で巡回活動を行った。

・小学校3校での絵本の読み聞かせ、中学校2校での図書委員会活動支援、読書相談など

・保育園、児童センター等6か所 絵本の読み聞かせ

事業の成果と課題

図書館での読書環境改善や、図書館利用の促進と子どもの読書を推進する取り組みとして、図書館外へ本を送り出す「移動図書館やまびこ号運行」や「司書による巡回活動」を定例行事等と合わせて展開し、多くの本に出会う機会と情報を提供することで利用増加を図った。ボランティア団体の育成にも力を入れたが、令和6年度は選書の絞り込みがあったことなどから大口の貸出数が減少し、総利用者数及び総貸出冊数が減少した。

【参考】実績比較(3館合計)

令和5年度 利用者数 7,667人 貸出冊数 37,728冊

令和6年度 利用者数 7,484人 貸出冊数 35,914冊

歳出決算額 26,467,819円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
備考	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない
外部評価	B	評価委員意見	・やまびこ号の運行のほか小中学校、園所への巡回活動など地道な取り組みを継続してもらいたい。	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する 単年度で終了

（6）放課後子ども教室推進事業

事業の目的・内容

放課後や長期休業日に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設ける。

地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

区分		事業の実績内容	
1	子ども教室名	戸河内小学校放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	戸河内小学校区	
3	実施場所	安芸太田町立戸河内小学校	
4	実施日数	年間：233日	平日：199日 土曜日及び長期休：34日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	平均人数：11人(平日)
区分		事業の実績内容	
1	子ども教室名	修道放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	旧修道小学校区	
3	実施場所	修道活性化センター	
4	実施日数	年間：225日	平日：187日 土曜日及び長期休：38日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	平均人数：4人(平日)

事業の成果と課題

小学校の空き教室等を利用し、安全安心な居場所として学習や交流事業等を実施。修道活性化センター、戸河内小学校で実施。

地域や各種団体の協力のもと、夏休みに交流事業等を実施した。

児童の放課後の居場所として定着し、家庭支援事業として大きな役割を果たしている。

補助事業	補助事業対象経費総額	補助金額(2/3)
放課後子ども教室推進事業	2,517,478円	1,678,000円

歳出決算額 4,115,166円

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
備考	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	・児童の放課後等の居場所づくりとして、家庭支援に寄与していると思う。 ・共働き家庭のニーズを踏まえ、利用開始時間の繰り上げなどの見直しを検討してもらいたい。	
事業の方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する	
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

7. 保健体育費

(1) 保健体育総務管理事業

事業の目的・内容

- (ア) スポーツ推進委員報酬 12人 408,000円
- (イ) 中国地区スポーツ推進委員研修会
- (ウ) 広島県スポーツ推進委員研究大会
- (エ) 第65回全国スポーツ推進委員研究協議会
- (オ) 安芸太田町体育協会総会
- (カ) 全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会（7月28日～31日）

事業の成果と課題

スポーツ推進委員に対し、スキルアップ及び情報共有を図るため、積極的に研修会に参加できるよう調整をした。

「全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会」は、令和3年度以降、開閉会式を行わず、大会運営の簡素化に取り組んでいるが、熱中症対策の必要性について検討する必要がある。

安芸太田町スポーツ推進委員協議会の研修を兼ねた「ボッチャ講習会」を12月に開催し、幅広い世代から33人の参加があった。今後もスポーツを通じて、地域や住民が生きがいや生涯スポーツに取り組めるようなメニューができるよう関係機関と図っていきたい。

歳出決算額 3,215,240円

評価

必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）				
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）				
事業の評価	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）				
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）				
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none">・いろいろなスポーツに親しむ機会を設けていただきたい。・スポーツ推進委員の活動内容を分かりやすく広報してもらいたい。	
事業の方向性	さらに重点化する	現状のまま継続する	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する	
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

(2) 体育施設管理事業

事業の目的・内容

町内の体育施設の維持管理、修繕等を行う。

事業の成果と課題

体育施設は老朽化しており、年々、修繕費等の経費が増大している。

歳出決算額 24,251,983 円

主な歳出の内訳

施 設	設置場所	支出額[円]	備 考
体育施設	加計体育館	9,037,764	指定管理料、建物共済等
	修道活性化センター	2,649,794	管理委託料、保守点検・維持管理、修繕料等
	津浪体育館 (津浪スポーツ広場も含む)	231,348	管理委託料、水道、A E D レンタル等
スポーツ広場	見入ヶ崎スポーツ広場	153,438	管理委託料、水道等
	温井スポーツ広場	53,632	管理委託料、電気代
	松原スポーツ広場	30,000	管理委託料
	至誠スポーツ広場	6,744	電気代
	筒賀ふれあいスポーツ広場	136,337	電気・水道代等
	筒賀多目的スポーツ広場	217,850	電気代等
	修道スポーツ広場	81,814	電気代、管理委託料等
	坂根スポーツ広場	667,099	管理委託料、保守点検、修繕等
	殿賀スポーツ広場	179,258	管理委託料、電気代等
	杉の泊スポーツ広場	30,000	管理委託料
学校体育施設	筒賀ゲートボール場	6,728	電気代
	加計小学校体育館	102,601	管理委託料、夜間照明
	筒賀小学校	208,012	夜間照明
	上殿小学校	44,396	夜間照明
その他	旧戸河内中学校 他	187,254	夜間照明
その他	加計中学校	226,629	夜間照明
町内プール	加計・戸河内・筒賀・上殿・ 修道・温井	9,670,905	報酬、管理委託料、保守点検・ 維持管理・水質検査、AED レンタル等
合 計		23,921,603	

ア 加計体育館利用状況

年間利用状況

利用日数[日]	利用件数[件]	利用者延べ人数[人]
260	588	8,555

種目別利用状況

種 目	利用団体 [団体]	利用件数 [件]	利用者延べ人数 [人]	利用料金 [円]
バレー ボール(部活含)	29	264	3,923	257,950
ビーチボール バレー	1	72	778	62,920
バドミントン	11	84	532	108,020
卓球(部活含)	7	57	419	70,565
テニス(部活)	3	24	188	3,960
フットサル	1	28	271	40,217
サッカー	2	9	292	2,640
その他	10	50	2,152	340,780
合 計	64	588	8,555	887,052

イ 戸河内ふれあいセンター利用状況

年間利用状況

メイプルホール			アリーナ		
利用日数 [日]	利用件数 [件]	利用者延べ 人数[人]	利用日数 [日]	利用件数 [件]	利用者延べ人 数[人]
27	35	1,603	226	287	5,190

種目別利用状況

種 目	利用団体 [団体]	利用件数 [件]	利用者延べ人数 [人]	利用料金 [円]
バレー・ボール	1	32	361	16,000
ビーチボール・バレー	1	25	193	12,500
ソフトバレー・ボール	0	0	0	0
バドミントン	1	2	78	26,260
卓 球	1	46	389	23,000
剣 道	2	40	298	4,040
その他の	26	142	3,871	467,680
小 計	32	287	5,190	549,480
メイプルホール	19	31	1,569	251,625
(冷暖房)				0
楽屋	1	4	34	0
(冷暖房)				0
ピアノ、音響等				0
ロビー	0	0	0	0
小 計	20	35	1,603	251,625
合 計	52	322	6,793	801,105

(3) 社会体育振興事業

事業の目的・内容

ア 第12回安芸太田町民グラウンド・ゴルフ大会

9月22日 深入山グラウンド・ゴルフ場 59人参加

事業の成果と課題

グラウンド・ゴルフ大会は小学生の参加もあり、幅広い交流となった。今後も住民ニーズを把握しながら、スポーツ振興に資する住民の活動を支援する必要がある。

歳出決算額 119,218円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	できていない
備考	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない
外部評価	B	評価委員意見	・町主催行事がグラウンド・ゴルフ大会だけなのが寂しく、ボッチャのほか多様なスポーツ体験会などの取り組みをしてもらいたい。	
事業の方向性	さらに重点化する	現状のまま継続する	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する	
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了	

8. 共同調理場費

(1) 加計共同調理場運営事業・筒賀共同調理場運営事業

事業の目的・内容

2つの学校給食共同調理場から、小学校、中学校及び保育所、認定こども園へ、安心で安全な完全給食を提供する。

事業の成果と課題

加計・筒賀の両調理場の栄養士が連携をし、調理員の衛生面の指導を徹底しながら、産直市や農家と連携し地元の食材を積極的に給食に取り入れた豊かな献立作りを行っている。

加計調理場では、調理業務と運搬業務については委託になっており、業者と連携を取りながら、これまでと変わらず、安心安全な給食を提供している。

歳出決算額

加計共同調理場運営事業 62,765,437 円

筒賀共同調理場運営事業 19,038,253 円

加計学校給食共同調理場

(令和6年5月1日現在、単位：人)

職 員	場長 1人、栄養士 1人(兼任：加計中学校栄養教諭) 事務1人 計3人 調理員、運転手(委託)			
学 校 給 食(職員数は臨時・非常勤含む)				
小学校	児童数	職員数	合 計	
戸河内	49	9	58	・児童数 150人 ・生徒数 40人 ・職員数 39人 計 229人
加 計	101	15	116	
中学校	生徒数	職員数	合 計	
加 計	40	15	55	
保育所・認定こども園(職員数は臨時・非常勤含む)				
保育所	3歳児未満	3歳児以上	職員数	・3歳児未満 7人 ・3歳児以上 26人 ・職員数 15人 計 48人
修 道	1	4	4	
認定こども園	3歳児未満	3歳児以上	職員数	
あさひ	6	22	11	

筒賀学校給食共同調理場

職 員	場長(兼任) 1人、栄養士 1人(兼任：筒賀小学校栄養教諭) 調理員 正職1人、臨時3人(半日勤務1人) 運転手(臨時)1人 計7人			
学 校 給 食(職員は臨時・非常勤含む)				
小学校	児童数	職員数	合 計	・児童数 47人 ・生徒数 50人 ・職員数 27人 計 124人
筒 賀	47	12	59	
中学校	生徒数	職員数	合 計	
安芸太田	50	15	65	

学校給食費徴収状況

	年度	調定額 [円]	収入額 [円]	収入未済額 [円]	未納数 (件)
現年度分	R 6 年度	20,685,137	20,668,109	17,028	4
過年度分	H27 年度	9,800	0	9,800	2
	計	9,800	0	9,800	2

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
十分できている	できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	できていない	
目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）				
十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	あまりできていない	できていない	
備考				
外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の取り組み、地域の食材が献立になるのは大切で、今後も続けていただきたい。 ・子どもや保護者の満足度も知りたい。 	
事業の方向性	さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			